

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成24年6月25日（月）～7月1日（日）〔平成24年第26週〕の感染症発生状況

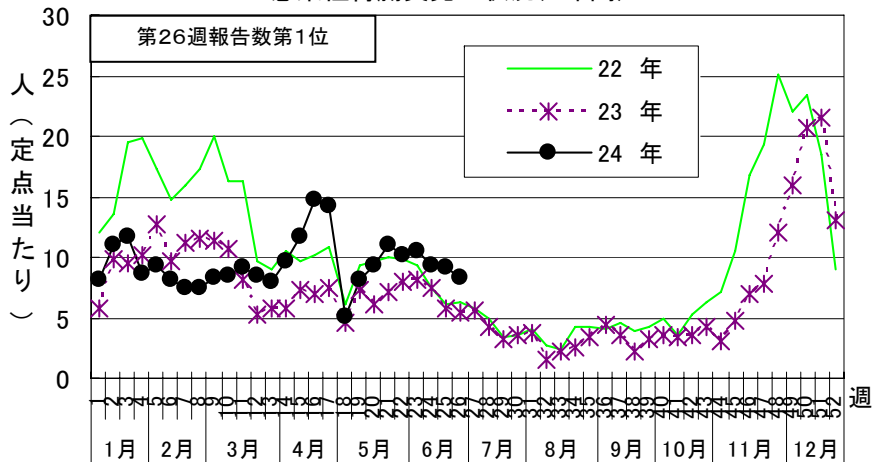
第26週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3)水痘でした。

感染性胃腸炎は定点当たり8.24人と前週（9.18）より患者報告数は減少しましたが例年を超える報告が続いており、平成11年のデータ収集開始以来、過去同時期と比較して最多の報告が第21週以降6週連続で続いています。

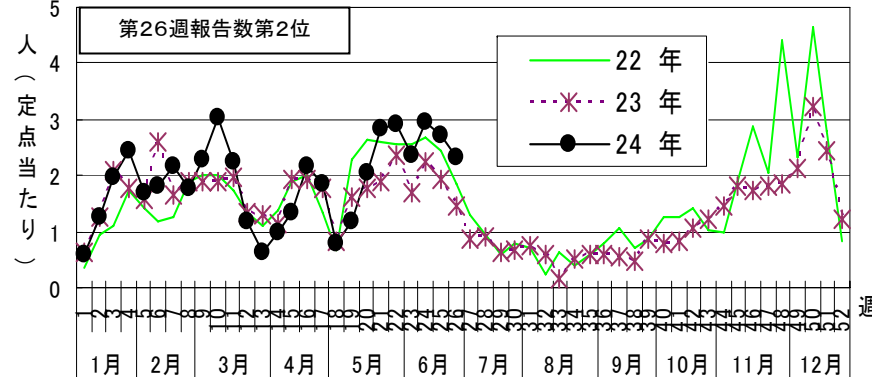
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点当たり2.33人と前週（2.70）より患者報告数がやや減少していますが、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

腸チフスの届出が1件（推定感染経路：経口感染、推定感染地域：川崎市）ありました。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



～昨年は「手足口病」、今年は「ヘルパンギーナ」～

例年、いわゆる夏かぜとして、「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」が流行します。昨年は、夏かぜの多くは「手足口病」でしたが、今年は「ヘルパンギーナ」の報告が増加しています。下のグラフのとおり、「ヘルパンギーナ」は7月下旬頃まで患者報告数が増加し続けることが推測されますので、予防対策等の徹底が重要です。

ヘルパンギーナの特徴

ヘルパンギーナの潜伏期間は2～4日間とされ、突然の高熱（38～40℃）と咽頭痛（のどの痛み）で発症します。

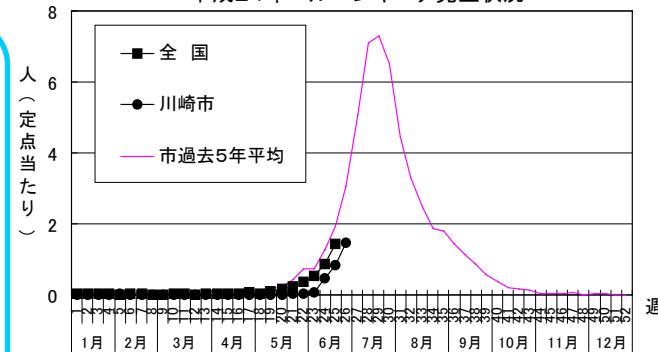
主に1～4歳の小児を中心に流行し、患者ののどからの分泌物及び糞便に含まれるウイルスから感染します。

また、糞便からは1ヵ月ほどウイルスが出ている可能性がありますので、特に患者のおむつを替えた後などは注意が必要です。

一般に予後良好ですが、髄膜炎を発症することがありますので油断はできません。



平成24年ヘルパンギーナ発生状況



最も効果的な予防方法は十分な手洗いです（特に便を取り扱った後）。

有症時及び有熱時は、安静及び水分・栄養補給を心がけることも大切です。